

## パブリックコメントの結果及び対応について

## 1 パブリックコメントの概要

## (1) 募集期間

令和2年6月22日(月)～令和2年7月21日(火)

## (2) 閲覧及び募集方法

- ・ 那珂市ホームページへの掲載
- ・ 那珂市役所政策企画課での閲覧
- ・ 那珂市役所瓜連支所での閲覧
- ・ 那珂市立図書館での閲覧
- ・ ふれあいセンターよこぼりでの閲覧
- ・ ふれあいセンターごだいででの閲覧
- ・ ふれあいセンターよしのでの閲覧
- ・ 総合センターらぼーるでの閲覧
- ・ 中央公民館図書閲覧室での閲覧

## (3) 募集の結果

- ・ ホームページへのアクセス 176 件
- ・ 意見提出人数 3 人
- ・ 意見数 7 件

## 2 意見の概要及び対応（回答）

No.	意見の概要	対応（回答）
1	<p>本市は南北に久慈川と那珂川を擁していますがそのどちらも、一部断絶区間はあるものの堤防上を走る既存の素晴らしいサイクリングロードが既に整備されております。</p> <p>堤防は国交省の管理で那珂市の管轄外かもしれませんが、引田委員の仰るとおり、川沿いのルートをマップに記載することを提案いたします。一般に中級以上のサイクリストは、複数の市町村をまたいで1日50～100キロ以上のルートを走ります。しかし、市側で計画しているルートは、主に市内を巡回する短いルートに限られていますので、市民の健康増進には役立ちますが、他の市町村からの利用者は殆どいないと思われます。</p>	<p>久慈川及び那珂川沿いのサイクリングルートについては、「自転車ネットワーク計画」の中で、「観光系ネットワーク路線」として位置づけております。</p> <p>現在、「那珂市のサイクリングマップ」の作成を進めているところであり、当該マップにおいては、両河川沿いのルートを活用した周遊コース等を掲載していきたいと考えております。</p> <p>また、県では、那珂市を含む県北地域の広域エリアを対象とした「奥久慈里山ヒルクライムルート」（約200km）の整備を進めており、さらに、県央地域定住自立圏（水戸市を中心とした9市町村）では、「水戸市・那珂市・城</p>

	<p>この川沿いのルートを利用しますと、「本市を起点」として西は御前山～茂木・笠間まで、北は奥久慈～水府の山々から東の那珂湊・久慈浜への太平洋岸までの広範囲なルートが開けます。</p>	<p>里町サイクリングコース」(約 42 km) を設定するなど、複数の市町村をまたいだルートがございますことから、これら広域ルートとの接続・連携をマップに位置付けてまいります。</p>
2	<p>現在、那珂西地区において河川敷の公園整備が進んでいるようですが、ここをサイクリングの拠点として整備しては如何でしょうか。土浦市の「りんりんポート」を例とした、トイレ・シャワー・簡易整備室・レンタサイクル・観光案内所等を備えたサイクルステーションを管理棟に併設する事で、他の市町村からのサイクリストを集める事が出来ると考えます。状況に応じて飲食スペースや農産物販売所等を増設し、県内の他のサイクリングルートと連携すれば観光施設として更に魅力的な場所となると思われま。</p>	<p>現在、那珂川の河川敷に、河川管理者(国土交通省)との連携のもと、スポーツや交流イベントなど多目的に利用できる広場等の整備を進めており、令和4年4月の供用開始を予定しております。</p> <p>当該広場は、河川敷エリア内であり建築行為ができない区域となっております。</p> <p>しかしながら、河川敷という良好なロケーションであり、「奥久慈里山ヒルクライムルート」とも隣接した位置にあるなど、サイクリングの拠点として最適なものと考えておりますので、サイクリストに親しんでいただける公園となるよう、最大限利活用を図ってまいります。</p>
3	<p>本市を中心として市内の道路を自転車で走っていて最も気になるのが、道路環境が非常に悪いということです。安心・安全な道路環境の維持管理をお願いします。</p> <p>実際に市職員の方が自転車で想定ルートを実走された様なのでお分かりになったと思われまますが、場所によってはアスファルトの劣化、路面陥没やその修正による凹凸、砂利の散乱、排水用グレーチングによる段差などが見受けられます。自動車で行っていると全く気にならないのですが、サスペンションのない自転車でこういった道路を走るとものすごい振動が手に伝わり乗車していて大変不快な気持ちになります。</p> <p>また、タイヤの細いスポーツタイプの自転車の場合には、特にパンクの危険性が高く、実際に私が自転車に乗っていてパンクしたのは、いずれも前述の様な路面の悪い場所を走行した時でした。更に、道幅が狭く、自動車に追い抜かれる際に怖い思いをする箇所や、</p>	<p>本計画では、基本方針1に「自転車の利用環境の計画的な整備」を施策に掲げ、安心・安全に自転車を利用できるよう計画的に自転車利用環境の整備を推進することとしております。</p> <p>具体的には、「自転車ネットワーク計画」に位置づけた路線につきましては、各道路管理者や関係機関との連携のもと、矢羽根やピクトグラム等の整備を進めるとともに、通学路も含め危険箇所の改修・改善、除草や土砂の撤去などの走行環境の適切な維持管理に取り組むこととしておりますので、予算に限りはありますが、積極的に自転車利用環境の整備に努めてまいります。</p>

	<p>草木が生い茂って道路幅を狭くしているところもあります。(例えば、県道 61 号日立笠間線 静神社～大川製螺区間は路面に凍結によるスリップ防止の縦溝が彫られているために自転車のハンドルが左右に取られやすく、その上に道路が狭小で草木が覆い被さり危険で、歩道は避難しようにも竹の根で凹凸がひどく走行が不快です。また県道 102 号長沢水戸線下江戸地区の道は、路面が補修による継ぎだらけで凹凸が多く、その上にダンプカーによる砂利の散乱がひどいです。)</p> <p>道路の管理は県で那珂市の管轄外と思われませんが、基本的な道路状況の改善と維持管理をしっかりと行っていかなければ、ただ地図に載っているだけでサイクリストが「また走りたい」と思ってもらえるルートにはなりません。本気で自転車による町おこしを進めるのであれば、県や国交省に協力を仰いで安全で快適な道路環境の「継続的な維持・整備」をして行かなければ、市税でサイクルマップを印刷して配布するだけになってしまうでしょう。</p> <p>自転車で毎日通学する中学生の交通の安全を守る必要もあります、那珂市として積極的な改善を要望いたします。</p>	
4	<p>市のプランでは、既存の舗装道路を利用したサイクリングルートの選定を検討している様ですが、第二弾として、林道を利用した MTB で里山を巡るサイクリングルートの選定を提案します。現在、瓜連地区の古徳沼周辺では、那珂自然の会や地元古徳自治会ボランティアによる維持管理のもと「静古徳古道」の整備が行われています。</p> <p>このルートは、ハイキングを想定したルートですが、MTB 等の自転車で巡っても大変気持ちの良いコースです。街の喧騒を離れ、野鳥のさえずりを聞きながらのサイクリングは、那珂市の有する豊かな自然を全身で満喫出来るとともに、現代人が忘れてしまった、里山と共に暮らした時代の、自分たちが自然の一</p>	<p>本計画に位置付けた「自転車ネットワーク路線」は、基本的に舗装道路を対象として設定しております。</p> <p>ご提案の「林道活用による MTB 走行」につきましては、自転車活用の新たな魅力に繋がりますことから、常陸太田市での活用状況などを調査していきたいと考えております。</p> <p>一方で、林道の維持にご尽力いただいている地元関係者のご意向が第一でありますことから、検討に当たりましては、慎重に対応していきたいと考えております。</p> <p>本計画につきましては、事業の進捗や効果等を見極めながら、必要に応じて見直しを行うものと考えておりますので、新たな取組につきましても積極的に検討してまいります。</p>

	<p>部として生きている事を再確認する事もできるコースです。近隣の常陸太田市では、MTB 専用の本格的なコースを備えたふるさとの森という魅力的なコースがあります。こういったコースと連携することで、市外の山歩きの愛好者や MTB 乗りのサイクリストを那珂市に呼び寄せる事が出来ると考えます。</p> <p>また、こういった林道の維持管理の努力をしているボランティアの方々がいらっしゃるのにも関わらず、残念ながら産業廃棄物の不法投棄が後を絶ちません。</p> <p>特に自動車が侵入できる区間においては、繰り返し産廃の投棄が行われる場所（古徳沼よりバードラインに抜ける林道の森の幼稚園付近です）があります。人が集まる様になるとゴミのポイ捨てが心配されますが、山歩きの方やサイクリストの様な方は、元々環境意識の高い方々だと思われるので、それ程の心配は要らないと思います。</p> <p>人が集まり、里山に普段から人の目が行き届くようになればこういった悲しい不法行為は減少するものと思います。古徳沼や静峰公園、県民の森周辺には駐車場・公共トイレも整備されており既に多くのハイキングコースが存在します。これを MTB 走行可として歩行者優先の原則や林道を削る急ブレーキの禁止などのルールを徹底した上でしっかりと整備すれば、新たに林道を開通させたり、廃道となった林道を整備し直すよりは、遥かに安上がりです。</p> <p>従って、そういった公園等を起点とした既存的林道を MTB が走行出来る様に整備することで里山めぐりの魅力的なコースを作る事が出来ると考えます。</p> <p>美しい里山を後世に残していくためにも、第二弾として林道を利用した里山をめぐる MTB サイクリングコースの設定を提案します。</p>	
5	<p>電気自転車の充電ステッカーを作る。</p> <p>総合保険センター、中央公民館、市立図書館、ふれあいセンターよこぼり、ごだい、よ</p>	<p>本計画では、基本方針 2 において「電動アシスト自転車等の普及啓発」に取り組むこととしております。</p>

	<p>しの、市役所、瓜連支所、その他で充電できるようにステッカーを貼らせてもらう。65 歳以上は無料、車の免許返却をはかる。</p>	<p>「電動アシスト自転車」は、特に高齢者への利用促進が有効であると考えられますので、その普及状況を踏まえながら、公共施設等における充電利用への配慮につきましても、前向きに検討していきたいと考えております。</p>
6	<p>下菅谷から太田まで電車で自転車を乗せられるようにする。AM10:00~PM3:00 頃まで。</p>	<p>現在も、水郡線車内への自転車の持ち込みは、自転車を分解または折りたたんで、専用の袋に収納することで、乗車が可能であります。</p> <p>一方で、自転車を分解せずに乗車する場合には、自転車の持ち込みエリアを確保した専用車両（サイクルトレイン）の運行が必要と考えられます。</p> <p>これまでも「サイクルトレイン」の運行につきましては、JRに要望してまいりましたので、引き続き要望していきたいと考えております。</p>
7	<p>要望：基本的に生活道であること 単にA-Bの2点間ではなく、複数の点全体が一続きになっていること。 更に段差は無いこと 複数の点：市役所、学校、銀行、郵便局、病院、薬局、駅、公民館、スーパーマーケットなど 体験：ひたちなか市の病院まで35分 従来：水郡線-（水戸駅乗換）-常磐線勝田駅 病院迄徒歩 今回：コロナウイルスの感染を避けるため自転車に変更 6号国道、常磐線を横断し病院到着 自転車道と歩道の段差は無し 病院の駐輪場：自転車40台利用</p>	<p>本計画における「自転車ネットワーク計画」の「生活系ネットワーク路線」につきましては、市内の公共施設や商業施設など、日常生活の中で利用する主な施設の往来を意識して選定しております。</p> <p>さらに、「自転車ネットワーク計画」に位置づけた路線につきましては、矢羽根やピクトグラム等の整備を進めるとともに、危険箇所の改修・改善などに取り組むこととしておりますので、予算に限りはありますが、積極的に自転車利用環境の整備に努めてまいります。</p> <p>また、市民への自転車活用の推進に当たりましては、民間施設における自転車利用環境への配慮につきましても、働きかけていきたいと考えております。</p>